

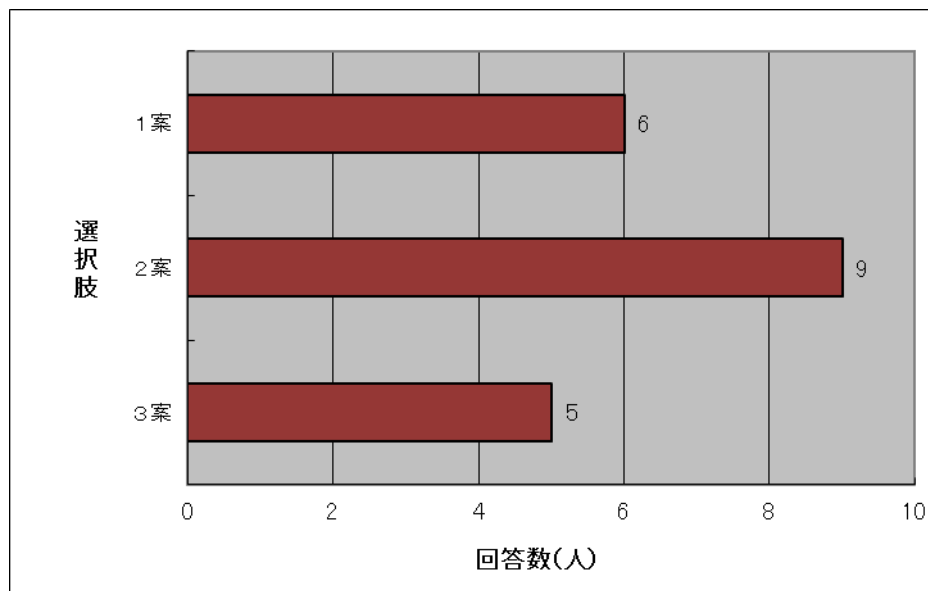
アンケート調査の集計結果

1 調査の概要

- (1) 調査対象 平成 25 年度西東京市立学校統合協議会の委員全員
- (2) 調査目的 委員の通学区域見直し等に関する意向を確認するため
- (3) 調査方法 第1回統合協議会においてアンケート用紙を各委員に配布
郵送及び学校交換便により回収
- (4) 回答者数 20 人(回収率 100%)

2 集計結果

【質問1】 新しい通学区域として最適だと思う案



3 理由等

【質問2】 選択理由、気になる点

※提出されたアンケートについて、ご意見等の趣旨を尊重しながら、以下のとおりまとめました。

1案を選択した理由、気になる点

- 住所で区分するものがわかりやすい。
- 将来のことを考え、区切りはシンプルな方が良い。
- 教室が不足する場合は、増築等を検討すべき。(通学区域で調整すべきではない。)
- 泉町1丁目児童をフラワー通りを渡らせる箇所がどこも危険。
- 泉小統廃合対策委員会集計の移動希望調査では、1案の谷戸第二小学区(泉町1丁目、住吉町1丁目)在住の80%以上が保谷小を希望している。今後統廃合の可能性のない学校を保護者達は選択したものと考えられる。
- 泉町1丁目を保谷小学区にすることで谷戸第二小の偏重も避けられる。
- 安全管理上、目が届きやすいのでシンプルな方が良い。
- 防災・有事の際の対応でもわかりやすい。
- いずれの案でも通学区域外への希望はあるので、臨機応変な対応をしてほしい。

2案を選択した理由、気になる点

- 通学距離が考慮され、かつ現状の学校選択制度等の状況を加えている2案が最適。
- 学校選択の希望者は少ない方が良い。
- 2案は、現在学校選択等を利用して、隣接校に通学している児童を基に区分しているため、通学区域外に入学することで生じる児童数の変動が最も少なくなる。
- 1案にした場合でも、学校選択等により児童数が変動すれば、結局は2案にすればよかったということになってしまう。
- わかりやすいことに重点を置いて1案を選んだ場合、同じ地域でも学校選択等で通学している学校が異なることが多くなり、かえって安全管理上に支障が生じるのではないか。
- 通学距離のバランスを考えると2案が一番良い。
- 現状を考慮しての案なので現実的である。
- 通学距離がほぼ同じということで、保護者が理解、納得してくれる案である。
- 指定校変更については弾力的に考えてもらいたい。

3案を選択した理由、気になる点

- いずれの案も幹線道路を跨ぐので、人を配置して通学の安全を確保する必要がある。
- 通学距離、統廃合の趣旨から3案を選択すべき。
- 1案では谷戸第二小学校の学級数が20学級となるが、ランチルームやPTA室等を廃止して普通教室にせざるを得ない。このような教室利用は統廃合の趣旨に即さない。
- 学校の施設、利用状況・生活状況と関係なく、わかりやすいという理由で1案という意見には再考を求めたい。
- 谷戸第二小学校の学級数が19～20学級になると心豊かな行事や活動の質を保つのが難しい。
- 大幅な児童数の増加は、施設的に限界であり、1、2案は不可能。
- 学校選択等で通学区域外から通学している児童の居住地に配慮し、3案をベースに線引きの修正を希望する。
- どの案も通学路の安全条件は同じ。
- 住吉小学校の施設を有効活用すべき。
- 児童数が均等になるよう区分した方が良い。
- 谷戸第二小学校は学童のことが課題にある。入学者数が多くなることで急激に学校の状況が変化するのではないかと心配。
- 適正規模適正配置における基本方針である複数学級を確実に実現するためにも、3校の人数のバランスを考え、住吉小の人数がなるべく多くなる学区割が望ましい。
- 3案を基に主な道路で分けるなど微調整をしていくのが良いと思う。